

平成28年度学校評価（全日制課程）

愛知県立大府高等学校

本年度の重点目標	①学ぶ姿勢と確かな学力を身につけさせ、進路希望の実現を図る。 ②部活動、生徒会活動、学校行事の一層の活性化を目指す。 ③基本的生活習慣を確立させるとともに、規範意識の醸成を図る。 ④保護者、同窓会、中学校、地域等との連携強化を図る。		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務部	①無駄をなくす ②仕事の効率化 ③PTAとの連携強化	「改善PART2」 「the S.M.A.R.T way」 ①specific:具体的に ②Measurable:定量に ③Attainable:達成可能な範囲で ④Realistic:現実的に ⑤Time-bound:締め切りを意識して	①年度当初に総務部業務マニュアルを作成し、各担当の内容を確認する。 ②式典などを画像で記録・確認することで、入学式・卒業式などの準備を効率的かつ計画的に準備。終業式・始業式が体育館の耐震工事で使用不可であったが対応できた。 ③昨年同様PTA委員と早く連絡を取ることができた。
教務部	入試業務の円滑な遂行	①入試制度の更新に伴い、入試業務内容の変更点について議論・整理する。 ②シミュレーションを繰り返し行い、気づきをすべて部内で報告し、意見を集約する。	①試行マニュアルに従い、業務を問題なく遂行できた。実際の入試業務では実データの入力から正確に行わなければならない。データ入力は複数の目による確認をおこないつつ慎重に取り組みたい。 ②試行データの確認作業では特に問題は生じていない。実際のデータ処理でも間違いの無いようにしたい。
生徒指導部	①基本的生活習慣の確立（遅刻防止） ②身だしなみ指導の徹底 ③交通安全意識・登校マナーの向上	①8時35分に教室へ入室、5分前登校の継続指導、遅刻過多生徒への指導を強化する。 ②身だしなみ指導、事後指導、登校指導、交通安全指導時の校門指導を継続して実施する。校外での指導機会の増加させる。年度当初に「生徒指導に関する確認事項」を全職員に配付し、指導内容・方法の確認する。 ③交通安全指導への生徒参加、地域へのアピールしながらPTA合同指導時に保護者のたすき利用、自転車登録・点検時に交通安全指導を徹底させる。自転車通学路及び自転車の駐輪マナーの徹底する。	①毎朝の登校指導とともに、各学年・各クラスにおける「8時35分入室」の指導により、遅刻指数は例年並みの好結果を残すことが出来た。来年度はさらにレベルアップさせた目標設定をしていきたい。（遅刻指数：0.20、遅刻総数：199） ②身だしなみ事後指導の件数は、昨年に比べ減少した。校外での指導をした際にも、指導を受ける生徒は数名であり、指導の成果が着実に見えている。 ③交通事故件数は昨年の数に比べ、ほぼ横ばい状態である。自転車通学者が年々増加している中でこの課題は非常に大きい。事故後の適切な対応や交通マナーの向上とともに、今後もしっかりと指導していきたい。
進路指導部	自己理解と適切な職業観に基づく進路決定	①LTおよび総合的な学習の時間に行う進路行事と進路指導の関連性を深め、有効な進路指導の方策を工夫する。 ②長期休業中のインターンシップを紹介する。 ③キャリア教育の計画を立案・作成し、学校教育全体の中に位置づける。	①進路講演会・ガイダンス等の実施前にワークシートを配布した。生徒は講演内容をメモしたり、自分の考えをまとめたりするのに活用した。担任の事後指導の資料としても活用できた。今後さらなる活用を目指して、改善に努めたい。 ②長期休業中のインターンシップには、普通科16名生活文化科1名の生徒が参加し、4カ所の官公庁・企業で実施した。生徒自らで事前の打ち合わせをし、積極的に取り組んだ。事後アンケートでも有意義だったという回答がほとんどだった。また、就職希望の2年生対象に3月にインターンシップを実施する。実際の現場を見て、自分が働くというイメージを具体的に持ったり働くことの社会的意義を考えたりする機会にしたい。 ③キャリア教育の全体計画を立案し、教科・特別活動・総合学習等の個々の教育活動を通して育成したい能力の具体的な位置づけを示した。キャリア教育浸透のため、全体計画の活用を目指す。
保健厚生部	健康の自己管理能力の育成	①生徒保健委員会を毎月開催し、「保健だより」の作成・発行、「水質検査」等を行う。 ②保健室利用者数の調査、利用者への「生活習慣」のアンケートを行う。 ③スクールカウンセリングの周知徹底を図り有効活用する。 ④救急活動の充実を図る。	①生徒保健委員会を毎月開催し、保健だよりも予定通り発行できた。係活動も積極的に進められたことができた。 ②保健室来室者は内科、外科ともに増加し、前年度の1.6倍となった。生活習慣アンケートの結果、睡眠時間が5時間未満の生徒が11%もあり、今後改善したい。 ③スクールカウンセリングの利用率は、ほぼ100%で有効活用された。カウンセラーの助言を全教職員で共有する体制を整えることが、今後の課題である。 ④教職員、運動部代表及び保健委員会を対象とした救急救命講習を2回実施できた。
図書情報部	校務支援システムの導入と円滑な運用	①校務支援システム（メソフィア）の使い方についてマニュアルや実演を通して職員にわかりやすく説明する。 ②部登録、クラス役員など生徒情報の入力・管理が確実にを行うことができるようにサポートする。	①②図書情報部と学年との連携に努め、円滑な入力作業ができた。さらに具体的にわかりやすいマニュアル作りに取り組みたい。
生徒会部	生徒会活動のさらなる活性化	①クラス数の違いが学校行事に影響を与えないよう方策を考える。 ②学校行事が安全かつスムーズに運営できるよう施設、設備の点検、改修を行う。 ③生徒会執行部、有志実行委員の育成に取り組み、次年度につながる活動を目指す。	学校祭、球技大会、交流事業ともに生徒に好評であった。また大きな事故もなく実施できたことも良かった。ただ、文化祭では、基本方針に沿わない企画が生じ、トラブルもあった。また体育大会も各役割での連携がうまくとれない場面もあったので、次年度は、職員の連携強化が課題である。具体的には①文化祭企画の早期の話し合いに教員が積極的に関わるよう促す。②体育大会では役割分担での問題点、要望等に迅速に対応すべく生徒会担当も交えた事前確認を実施する。等を考えている。
生活文化科	①知識と技術の定着 ②生活文化科の学校行事や学校家庭クラブ活性化	①学習環境の整備や各種検定の指導方法を個に応じて工夫する。 ②学校祭や学校家庭クラブ活動の運営について充実を図る。	①家庭科技術検定では、1級（被服製作の洋服、和服及び食物調理）2級（被服製作の洋服、食物調理）について高い合格率をおさめた。現在は、今後行われる情報処理検定や秘書技能検定の受験に向けて指導をしている。検定の指導方法について、来年度へ活かすため引き継ぎしていきたい。 ②文化祭における、ファッションショーや食物バザーについて高評価をいただいた。来年度については他の行事等の充実を図りたい。地域活動も定着しつつあり、生徒は日頃の学びを披露する場となっている。外部評価を受けることが次への意欲にもつながるので、地域や他校との交流が続くよう計画をしていきたい。
第一学年	基本的生活習慣と学習習慣の確立	①時間・規律を守り、コミュニケーションの第一歩である挨拶を気持ちよくすることができる集団を育成する。 ②授業を真剣に受けることのできる環境を整え、家庭学習の習慣を身につけさせる。 ③提出物を期限までに提出させる。 ④保護者との連絡を密にし、こまめな情報交換を心がける。	①朝8時35分教室入室については、一年を通して概ね良好である。来年度は修学旅行が控えているので、挨拶も含め、よりいっそう自主的に行動できるよう指導を継続したい。 ②学習態度は良好で、学習に意欲的に取り組んでいる生徒が多い。その反面、家庭での学習習慣がまだ確立していない生徒もおり、個人面談、学習時間記録表などを活用して、来年度も根気よく働きかけていく必要がある。 ③ほとんどの生徒が提出期限を守れるようになってきた。提出をうやむやにさせないようクラス担任、教科担任が協力して指導に当たった。今後も引き続き協力して指導していきたい。 ④担任会、学年会を通じて、情報交換を密に行い生徒指導を行うことができた。次年度に向けて情報の引き継ぎに漏れないように留意し、一貫した指導方針で臨みたい。
第二学年	進路目標の設定と学習習慣の定着	①LTや総合的な学習の時間を利用し、生徒の適性に合った進路目標を設定させる。 ②各教科で課題を定期的に与えることに加え、長期休業中の課題やGW課題など時期に応じて適切な課題を与え、学習習慣の定着を図る。	①面談や進路に関するさまざまな活動を通して、生徒も落ち着いた学習等に取り組む姿勢ができてきた。個々に問題が生じた場合は速やかに情報共有し、解決に向けて協力した。 ②課題への取り組みはほとんど期限も守れるようになった。反省点として定期考査の赤点保持者が増加したため成績上位者と下位者それぞれを個々に伸ばせるような課題の与え方など工夫していきたい。
第三学年	「生徒の適応に応じた進路指導」の実現	①面接等を充実させ、各生徒の「進路希望・学力・その他の状況」のより正確な把握に努める。 ②進路希望実現のため、各生徒の学力を向上させる。 ③様々な情報を共有し、それが有効に活用できるよう、方法の改善を試みる。 ④(②③のためにも)学年と進路指導部や教科との連携をより密にすべく工夫を加える。	①③④1年を通して、各生徒の情報を共有することができた。それを適切に活用することで、担任の指導はより効果的なものとなり、各時期の進路検討会も充実度を増したと考える。校外模擬試験の結果を検討し、担任・教科間の連携を深めることもできた。 ②補習については、基本的には昨年度の方法を踏襲しつつ若干の改善を加えた。生徒の取り組みも概ね良好であった。これらの反省も踏まえ、来年度に引き継いでいきたい。
総合評価	①学習面では、教員からの一方的な講義で知識を教えるのではなく、生徒を主体的に参加させ、仲間と深く考えさせながら課題を解決させる、いわゆるアクティブラーニングの授業展開が先生たちの中で徐々に浸透しつつある。 ②部活動では、陸上競技部が全国大会出場を果たし、その他にも多くの部活動が東海大会や県大会に出場し活躍した。また、生徒会活動では、学校行事の企画運営や大府特別支援学校との交流、あいさつ運動など学校の活性化に尽力した。 ③交通安全指導、登校指導、身だしなみ指導、自転車点検、講師による講話等を通して、基本的生活習慣や規範意識の醸成を図った。 ④PTA専門委員会の各活動は、保護者の協力により予定通り実施できた。また、家庭クラブやチアリーディング部、アカペラ同好会などが中心となって、地域連携に貢献した。さらに、上級学校説明会や進路説明会など、中学校訪問を積極的に行った。		